

Okinoshimaだより



第172回 セーリングフェスタ開催のお知らせ 9月20日(日)



例年は10月に開催している、島周りのロングレースですが、今年は10月に連休が無い為、9月に開催しようと思います。
まだまだ残暑が続き、台風時期でもありますが、沢山のエントリーをお待ちしております。

鹿川浮標をスタートし、沖野島と大黒神島の間を通過して甲島を反時計回りで回航、鹿川浮標フィニッシュとなります。

距離は約15マイルと長いので、各艇で昼食や飲み物を用意してクルージング感覚で楽しんで頂きたいと思います。



それなりの時間がかかりますので、暑さや日差しに備えての対策と、併せて念のため上着などの防寒もご用意下さい。

風によっては、大幅なコース短縮もあります。
普段参加されていない方も、是非ご参加頂ければと思います。

日時 9月20日(日)

08:00 レース前ミーティング(クラブハウス前) 09:00 レーススタート(予定) 15:00 タイムリミット(コース短縮あり)
参加費 無料 レース後の懇親会は致しません。参加希望の方は、マリーナ事務所まで。

「上綱克彦さんプロデュースによるコンサート」開催のお知らせ(予告)

恒例の「上綱克彦さんプロデュースによるコンサート」を、10月4日(日)に開催予定です。
詳細は分かり次第、お知らせ致します。



弊社メールアドレス変更のお知らせ

長年使っていたメールアドレス、okinoshima@mbp.sphere.ne.jp ですが、サーバーの運用の終了により、9月30日以降使えなくなります。

よって、新しいメールアドレスに移行となります。お手数ですがアドレス帳の変更をお願い致します。
新アドレスは下記の通りです。

info@okinoshima-marina.jp

既に並行して新しいメールアドレスの運用を開始しておりますので、ご利用になれます。
よろしくお願い申し上げます。





帆走方法を復習してみませんか？



恒例のセーリングフェスタは今回は島回りのロングレースです。マーク回航のショートレースはレース海面が狭いということもあり、出遅れた場合、挽回のチャンスは敵のミスくらいしか考えられないのですが、ロングの場合は、コース幅を大きくとれますし、意外と「神風」が吹いてくれたりしていつのまにか「ごぼう抜き」なんてこともあり得ます。オーナーさんそれぞれ、これまでのノウハウの蓄積はあると思いますが、もう一度初心に戻って、帆走について考えてみられるのは如何でしょうか？ほんの僅かですが、チェックしておきたい項目をまとめてみました。

1.レース前

①サイドスティのテンションを見ておきます。クローズホールドで走った時に、何回かタックして風下側のサイドスティの弛みを見ます。これががぶらぶらに緩んだりしていたら要注意です。

ロワー（マストの下側）のスティが少し緩んでいる程度なら問題ありませんが、緩み方が大きいなら調整が必要になりますので、左右を揃えます。

アッパー（マストの上側）のスティが緩んでいるなら大きな問題です。マストが風下側に傾いて、折角の風が逃げている可能性があります。マストの立ち方も含めてきちんと見て必要なら調整しておきましょう。

②フォアスティのサギング（弛み）は上り角度が悪くなります。特にジブファーラーが付いている艇は、foilやセールの重みも重なって、スティが弛んでしまいます。強めにテンションをかけておくと良いです。

③愛艇のマスト艀装がどの種類か把握しておくことが大事です。フォアスティがマストのてっぺんに取り付けられているものは「マストヘッドリグ」、マストの途中に取り付けてあるものは「フラクショナル（中間）リグ」と言います。

マストヘッドリグの場合、バックスティにテンションをかけることによって、フォアスティのサギング（弛み）をとることができます。通常、強めに張っておきます。一度調整したら、殆ど触る必要はありません。

逆にフラクショナルリグの場合は、通常はバックスティをブラブラに緩くしておきます。ここが重要です。特に微風の場合はバックスティにテンションをかける必要はありません。風が強くなってきたときに、バックスティにテンションをかけることによって、メインセールのリーチの上部が開いて、パワーを逃がすシステムなのです。

フラクショナルリグはサイドスティ（アッパー）でフォアスティにテンションをかけているので、バックスティを完全に切っても通常マストは倒れません。フラクショナルリグなのにバックスティをいつもカンカンに張ったままにしているか？…後ろで用を足すときには掴まり易いですが…（笑）

2.スタート前

①スピン艀装をある程度準備しておく、必要になったときに慌てることがありません。

②ジブ・メイン共にセールを展開し、ハリヤードのテンションを決めます。特にジブファーラーやメインファーラーを装備している艇は、普段からセールを上げたままの状態になっていますから、いつの間にかジブハリヤードのテンションが緩んでいることがあります。テンションが緩すぎると、上り角度やスピードにロスが生じたりしますし、セールを巻き取るときに、フォアスティにハリヤードが巻き付いたりする恐れがあります。

③クローズホールド（上り角度いっぱい）で走ってみます。

当日の風の強さに合わせてアウトホールを調整してメインセールの深さを決めておきます。

メインシートはしっかりと引き込みます。メイントラベラーが付いている艇は原則として中央で固定しておきます。

微風のときはやや風上側にメイントラベラーを引くと、上り角度が増すことがあります。試してみてください。

ジブセールを引き込み、テルテールの流れを揃えます。ジブシートリーダーの位置を調整します。風が強い場合は、後ろに引くことによって、ジブセールのリーチが開いて（ツイストさせる）風をある程度逃がしてくれます。

風が弱い場合は前に移動させて、リーチの開き（ツイスト）をできるだけ小さくすると、弱い風でもパワーが得られます。必ずタックして、反対側も同じ位置に調整を行ってください。忘れると、左右で走りが変わってきますので注意を！

それから、ブームにトッピングリフトが付いている艇は要注意です。ブームをトッピングリフトで持ち上げているということは、メインセールのリーチが開いている(ツイスト)ということになります。トッピングリフトを適度に緩めてリーチの開きやカーブを見てください。逆に風を逃がしたいのであればツイストしていると良いということです。

もちろん、ブームバングを引くことでツイストは解消します。特にクローズホールド以外のフリー(メインシートを緩めてセールを出して帆走)の時はメインシートでブームを下側に引っ張ることができなくなるのでブームバングを入れてやることによって、メインセールのツイストが減ってパワフルに走れます。



リーチが開いてツイストの無いセール

④スタートラインの位置を確認します。ライン付近を何度も往復するのほひとつの方法で、スタートまでの残り時間を見ながら、スタートする位置を考えながら往復します。スタート時間が近づくにつれて、艇速を落とさないように走らせ、スタートのタイミングですぐにスタートラインを切れるようにします。もちろん、他艇との位置関係もありますので、特に風下側のワッチを怠らない様に。

⑤微風の場合、どの海面が有利か良く見ておきます。海面の「シワ」や色が濃い部分が何処にあるか？それがどの方向に移動しているかを把握、ある程度のラインを予測します。

3.レース中

①クローズホールドは、セールのテルテールやリーチリボンの流れを見ながら走ることができるため、比較的セールトリムが分かりやすいものです。風の強さと艇のヒールの度合いをみながら、トリムをしていきます。ヘルムスマンがかなり強いウェザーヘルム(舵を風下側に切らないとまっすぐ走れない場合)を感じている場合、舵がブレーキになっていますので、セールをツイストさせて風を逃がすか、少し進行方向を風下に落とすことも考える必要があるといえます。

②クローズリーチ(クローズとアビームの間)やアビーム(横からの風)になると、特に微風でセールトリムが少しずつ分りにくくなってきます。テルテールが見えにくくなったり、ヘルムスマンはウェザーヘルムを感じにくくなります。ここは集中のしどころで、微風の場合は特にぼーっとしてしまいがちです。とにかく集中を切らさない事です。基本的にはテルテールとリーチリボンが流れるようにトリムしますが、風が弱くてよくわからない場合は風向きに対してセールの向きを45°という意識も頭に置いておくと良いです。先にも述べましたが、特にメインシートを緩めることによってブームが跳ね上がり、メインセールがツイストを起しているのを良く見かけます。この場合、ロスですから、ブームバングを引いてブームを下げるだけでもかなりパワーアップします。スピードメーターや風速計があるなら、それを見ながらトリムを行うともっと効果的です。また、アビームからやや後ろの風が続くと早めに判断できれば、スピナーカーやジェネカーを早めに揚げることによって、一気に他艇を離すことにもなるかもしれません。

③横よりも後ろからの風(ブロードリーチやランニング)の場合、風の角度に対して、原則セールの角度が直角になるようにメイン・ジブ共にトリムしてください。ブロードリーチ(斜め後ろの風)の場合、はテルテールも目安にトリムします。キールの揚力効果が少しありますので、ある程度の力が進行方向に働きます。真後ろの風(ランニング)の場合、上り(アップウィンド)のときのように、力学的効果(揚力)は関係がなくなり、帆掛け船状態になりますから、テルテールの動きも関係が無くなります。ブロードリーチで走るとき、気をつけなければならないのは、メインセールの陰にジブセールが隠れてしまい、パワーをロスしやすいことです。ジブセールとジブシートがだらりと下がってしまう現象ですぐにわかります。この角度で走らなければならないなら、スピナーカーやジェネカーを揚げるほうが遥かに速いということになります。

セーリングフェスタ前に一度チェックされてみては如何でしょうか？参考になれば幸いです。

(propman)

新型コロナウイルス拡散防止対策のお願い

広島県内で新型コロナウイルスの感染者が連日発表されています。ウイルス拡散防止対策として下記のご理解とご協力をお願いいたします。

1. マリーナにお越しの際は、マスクを携帯ください。
人と近い位置で会話などをする場合マスクを着用し、咳エチケット遵守や手洗いをお願いします。
2. ボート・ヨットのキャビン内などの密閉に近い状態での対面など、濃厚接触(3密)を避けてください。
また、換気をしっかりと行ってください。



株式会社トス 沖野島マリーナ

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江 836-3

Tel 0823 (57) 2450

Fax 0823 (57) 6845

HP <http://www.okinoshima-marina.jp>

Email info@okinoshi-marina.jp

発行責任者：山内貴宏

制作・編集：propman



編集後記

最近、気になるヨットがあります。アメリカの「TARTAN YACHTS」が建造するヨットなのですが、日本では数えるほどの数しか存在しません。実艇は1隻のみ見たことがあります。とにかくハルの仕上げが綺麗で、昔からよく言われる「ピアノ・フィニッシュ」と言いますか、とにかく景色がしっかりと映り込むほどピカピカで、船内外の仕様も生唾をゴクリと飲み込むほどの高級感があります。ラインナップは26フィートから53フィートですが、ラインナップのほとんどは35フィート以上の中・大型のモデルです。ハルの色は濃紺が基本で高級感があります。実は、実艇としては35フィート以上のものを見たわけではなく、一番小さい26フィートのディセーラー「FINTAIL」を見た訳なんです、これがまた上品な佇まいで、気に入ってしまいました。

スパーはカーボン製のマスト&ブームで、ジブはセルフタック、メインはかなり大きめで、ジェネカー用のガンポールを備え、走りを楽しむにはとてもハンドリングが楽そうで速そうです。ディセーラーですから、キャビン内は大人が直立して歩けるほどの空間は無く、簡単なバース、ギャレーシンク、マリントイレが備わっているだけです。動力は電動モーターの船外機です。バッテリーチャージャーが備えられ、陸電を利用して充電する仕組みになっています。

ただかディセーラーとはいえど、コックピットにはかなり厚手のチークが奢られ、写真のようにきれいなビルダー



のロゴが施されています。フリーボードが低いので、スマートで30フィートオーバーのヨットに見えてしまいます。買えないけど、久しぶりに「欲しいな！」と思ったヨットでした。これなら1日中セーリングしたくなります。ウェブサイト

<http://www.velasis.com/boatsales/tartan-yachts>

(propman)